

★決勝戦当日イベント★

平成 28 年度 第 65 回全日本大学サッカー選手権大会 決勝戦・Jクラブ内定選手サイン会実施のお知らせ

12月18日(日)に行われる「平成28年度第65回全日本大学サッカー選手権大会」決勝戦では、大学サッカーからJリーグへと活躍の場を移す選手達によるサイン会を実施致します！

毎年人気のこのイベントは、大学サッカーを4年間盛り上げた選手達が一堂に会す貴重な機会です！ぜひご参加ください。

また、Jクラブ内定者の名前入りユニフォームストラップも限定で販売します！

※サイン会の参加者、実施時間などに関しては確定次第追加でリリースさせていただきます。

※当日、試合(決勝戦)のある選手は参加致しません。

※当日不参加の選手のユニフォームストラップの販売はございません。2回戦会場イベントの予約販売分のみ受付いたします。

※予約されたストラップのお受け取りは、決勝戦のサイン会での会場のみとなります。

今後詳細が決まったものにつきましては下記の連盟公式 SNS アカウントにてお知らせいたします

★大会公式プログラム★

各会場プログラム販売所にて、大会公式プログラムを1冊1,000円で販売中！

巻頭「FC東京 室屋成×法政大学 山田将之」の特別対談は必見！！

☆ユニフォーム型ストラップ☆

出場全大学のユニフォーム型ストラップを販売いたします！1個500円。

65回大会にちなんで、65th All Japan Championship の特別仕様。観戦の記念に是非。

★I PLAY FOR PHOTO BOOK★

インカレ出場全大学の選手・スタッフの想い「I PLAY FOR…」が詰まった大会公式グッズ！

1冊500円。冊数限定なのでお買い求めはお早めに！！

◇(一財)全日本大学サッカー連盟公式 SNS◇

全会場・全試合リアルタイム速報は Twitter: @JUFA_soccer

Facebook: 全日本大学サッカー連盟

Instagram: @jufa_japan



Twitter Instagram

平成 28 年度 第 65 回全日本大学サッカー選手権大会

展望

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

NO.3

発行：一般財団法人 全日本大学サッカー連盟

内藤悠史・森田将義・佐川貴子

◆2回戦◆12月10日(土)

- ◇町田市立陸上競技場
- 【9】法政大学 0-3 大阪体育大学
- 【10】明治大学 6-0 九州共立大学
- ◇大和スポーツセンター競技場
- 【11】関西学院大学 5-0 専修大学
- 【12】静岡産業大学 0-2 日本体育大学
- ◇江東区夢の島競技場
- 【13】関西大学 2-1 鹿屋体育大学
- 【14】筑波大学 5-0 中京大学
- ◇味の素フィールド西が丘
- 【15】順天堂大学 2-1 慶應義塾大学
- 【16】仙台大学 1-2 阪南大学



関西学院大学 vs 日本体育大学

12月12日(月) 11:00
町田

激闘の予感漂う一戦、ベスト4進出を決めるのはどちらだろうか。前年度王者・関西学院大学は、初戦となった2回戦で専修大学に圧勝した。立ち上がりから両サイドを広く使った攻撃で相手を押し込み、主導権を握る。18分に右サイドからの鮮やかなパスワークを披露し、FW 出岡大輝(4年)が難なく押し込んで先制。出岡は36分にPK、45分にもヘディングシュートを決め、前半だけでハットトリックを達成した。後半にも2得点を追加し、終わってみれば5-0。4ゴールと大暴れの出岡は「初戦で硬くなりがちだったけど、前半で点を取れたことが大きかった」と振り返っている。

対する日本体育大学は、35年ぶりの出場となった今大会の初戦で静岡産業大学と対戦。32分にFW 太田修介(3年)のゴールで均衡を破り、リードを保って迎えた後半アディショナルタイムに勝利を決定付ける2点目を決めて2-0と快勝した。殊勲の太田は「初戦ということでチームとしても個人としても硬さがあったけど、前半のうちに1点取れたのが大きかった」とコメント。関学大の出岡と異口同音に、初戦の難しさを明かした。

試合への入り方が難しい初戦で、前半に均衡を破って完封勝利を収めた両チーム。準々決勝は大会2戦目ということで、初戦特有の“硬さ”からは解放されるだろう。立ち上がりから積極的な打ち合いが期待できるかもしれない。関学大は出岡やアルビレックス新潟加入内定のMF 森俊介(4年)、日体大は太田や関東リーグ得点王のMF 高井和馬(4年)と、両チームともに個人技で打開できるアタッカーを擁している。切れ味鋭い突破で存在感を見せつけるのはどの選手だろうか。

また、関学大には連覇という大きな目標がある。出岡は「チーム一丸で戦う」と力を込めていた。そして日体大は、3位に終わった総理大臣杯のレベンジを今大会で果たすという思いがある。太田は「しっかりと日体大のサッカーをして、相手を叩きたい」と勝利を誓った。

(文・内藤悠史)

1 上田			関学大
18 高尾	5 米原	2 岡山	16 小川原
	10 徳永		
	29 山本	6 富村	
11 森	7 出岡	25 塩谷	
	11 太田		
10 高井	6 小泉	8 大石	7 川戸
	4 輪笠		25 田宮
2 高野	5 ンドカ	29 大畑	
日体大	12 福井		

筑波大学 vs 関西大学

12月12日(月) 11:00
浦安

3年ぶりの出場となる大会初戦を快勝で飾った筑波大学。前半8分に挙げたFW 中野誠也(3年)の先制点を皮切りに、5点を奪い中京大学を下した。強風の中での試合だったが、風下立つ前半に中野が2得点を挙げたことで、俄然有利な展開に。「今日は風と芝と太陽が気になる状況だったので、最初は裏を狙って、相手のフィジカルが落ちてきたら足下でつなごうと話していた」(小井土正亮監督)との指揮官の狙いも当たり、後半は相手のシュートをゼロに抑えうに3点を重ね、筑波大の持ち味である攻撃力をいかに爆発させた。

対する関西大学は2試合連続の逆転勝利。風下立つ前半は鹿屋大に試合を支配されて先制点を許し、前半終了間際にもFKから2失点目を喫したが、これはオフサイドの判定でノーゴール。「0-1で折り返せたのが大きかった」(前田雅文監督)。後半は一気に攻勢に転じると、52分にはコーナーキックからオウンゴールで同点に追いつくと、84分には途中出場したMF 平尾隆(4年)がこぼれ球を押し込み、これが決勝点となった。1回戦でも平尾やMF 藤村洋太(3年)といった交代選手が同点弾の起点になるなど、「途中出場の選手が活躍してくれている」(同監督)のは、関西大の大きな強みだ。

次戦は中1日の日程とあって、両監督が口を揃えて勝利の鍵としたのが選手のコンディション。特に8チーム中唯一、1回戦から戦っている関西大は消耗が気になるところ。しかし前田監督は「リーグ戦から多くの選手を起用してきたので、誰が出て変わらぬ」と自信をのぞかせる。一方の筑波大・小井土監督は「関西大は応援も含めて一体感のある、勢いのあるチーム」としながらも「ウチは前線に力のある選手が多いので、面白い戦いになると思う」とコメント。ハットトリックを達成した中野を筆頭に、関東でも屈指の攻撃力を誇る筑波大を、ヴィッセル神戸内定のGK 前川篤也(4年)を中心とする関西大の守備陣がいかに防いで攻撃に転じるか。見どころの多い試合となりそうだ。

(文・飯嶋玲子)

30 阿部			筑波大
3 小笠原	5 鈴木(大)	17 野口	
14 会津	8 吉田	6 鈴木(徳)	
15 長澤	16 戸嶋	20 三告	
	11 中野		
10 清水	17 竹下	19 池内	28 藤村
	5 石井	14 森主	
21 黒川	4 荒木	29 諸石	12 池端
関西大	1 前川		

明治大学 vs 大阪体育大学

12月12日(月) 13:30
町田

総理大臣杯と関東リーグを制し、三冠を狙う明治大学。10日の2回戦では九州共立大学と対戦し、立ち上がりから相手を圧倒して6-0と圧勝した。打たれたシュート、相手のコーナーキック、自分たちのゴールキックはいずれもゼロ。まさに“完全勝利”といえる記録を残し、ベスト8へ駒を進めた。大会初戦で会心の白星を収めた栗田大輔監督は「リーグ戦終盤は4戦勝ちなしたかったので、この勝利には満足している」と選手たちを修正しつつ、「集中力が散漫になる時間帯もあった。しっかりと修正しないと」と課題を口にした。早い段階で大差をつけたことで生まれた余裕が悪い方向へ作用し、プレーの正確性を欠く場面が続いたことは確か。準々決勝以降は90分の中で“緩む”時間帯を作ってはならない。GK 服部一輝(4年)は「大勝の後の試合は特に気を付けなといけない」と気を引き締めた。FW 中村健人(1年)が2得点を挙げたことは収穫。ルーキーの活躍に注目だ。

対する大阪体育大は、2回戦で法政大に3-0と快勝。19分までに2得点を決めて試合を優位に進めると、後半立ち上がりに3点目を挙げて勝利を決定付けた。坂本康博総監督は「接戦だと思っていた。1-0から2-1かなと考えていた」と話しており、「想定外」の快勝だったようだ。とはいえ、持ち前のボール奪取力、1対1での競り合いの強さは関東では見られないレベル。「いかに接触するか、身体を寄せるといった話。その技術を身につけない」と語る指揮官の教えをしっかりと体現し、主導権を握っていた。

両チームは総理大臣杯の準々決勝で対戦し、明治大が3-0と快勝。とはいえ栗田監督は「大体大は守備の意識がより高まっている」と相手の印象を語っている。そして坂本監督は「コンスタントに力をつけているから、簡単には崩れないでしょう」と、明治大の強さを称している。互いに認め合うライバルが、東西の意地を懸けて激突する一戦。準々決勝屈指の好カードから目が離せない。

(文・内藤悠史)

1 服部			明大
12 岩武	7 水町	4 小出	5 河面
	17 小野	6 柴戸	
8 道淵			9 土居
	10 舟羽	27 中村	
	24 大田	26 古城	
11 末吉	8 後藤	28 田中	10 池上
2 太田	4 菊池	5 秋山	6 平田
大体大	31 立川		

順天堂大学 vs 阪南大学

12月12日(月) 11:00
味スタ西

2回戦で関東勢の直接対決を迎えた順天堂大学。相手は、リーグ戦で前後期ともに敗戦を喫した慶應義塾大学。難しい試合になると思われていたが、良くも悪くもその予想は的中。前半終了間際にコーナーキックから先制点を許してしまった。しかし、これが逆に順大の攻撃力を刺激した。後半開始早々の49分に怪我明けのDF 柳澤亘(2年)のゴールで同点に追いつくと、85分にはFW 浮田健誠(1年)が逆転弾を決め2-1で逆転勝利を収めた。「後半で途中交代することが多かったので、自分が逆転ゴールを決めることは珍しい」と、ホッとした表情で語った浮田。次戦の対戦相手である阪南大学を「攻撃力のあるチーム」と評価し、「カウンターから全員で崩していきたい」と虎視眈々と勝利を狙う。

一方、関西王者の阪南大も2回戦から登場。しかし、試合は初戦で金沢星稜大学を下して勢い乗る仙台大が先制。こちらも開始早々に先制点を許す形となったが、サイドから攻撃の起点を作ると、前半26分にFW 前田央樹(4年)のヘディングゴールで同点に追いつく。後半は阪南大がボールを支配し、81分にはコーナーキックから、FC 岐阜に加入内定のDF 甲斐健太郎(4年)が2点目を挙げて逆転に成功。全日本大学選抜で主将を務め、阪南大の中心選手でもあるMF 重廣卓也(3年)は、「失点してからも冷静にプレーできた」と、チームとして共通のイメージをもって逆転へと導いたことに手応えを感じた様子。順大については「テクニシャンが多いイメージのチーム」と警戒し、「攻撃よりも守備を意識して、チーム一丸となって勝利を収められるよう頑張りたい」と意気込みを語った。

奇しくも、ともに2回戦から登場し、逆転勝利でベスト8に進んだ順大と阪南大との対戦。入り方の難しいノックアウト方式の大会で、初戦を逆転勝利で飾ったことは大きな自信となったはずだ。双方とも攻撃的なサッカーを特徴として掲げるチームだけに、激しい点の取り合いが予想される、注目の試合となるだろう。

(文・佐川貴子)

1 佐久間			順大
22 柳澤	16 村松	2 坂	5 毛利
	7 名古	13 室伏	
14 杉田	17 旗手	18 浮田	11 米田
	10 山口	13 前田	
11 外山			22 藤原
	14 脇坂	8 重廣	
3 吹ヶ	4 大野	5 甲斐	23 大木
阪南大	1 黒木		